

ホクコーロムダン®フロアブル

■種類名：テブフェノジド水和剤
 ■有効成分：テブフェノジド----- 20.0%
 ■化管法指定物質：テブフェノジド [第1種] ----- 20.0%

■登録番号：第19001号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
 ■登録初年：1995.04.26
 ■性状：類白色水和性粘稠懸濁液体
 ■有効年限：5年
 ■包装：335ml×20本、500ml×20本

【特長】

- チョウ目害虫の脱皮を促進することにより殺虫効果を示す昆虫成長制御剤(IGR剤)。
- 幼虫の発育令にかかわらず高い効果を示す。効果持続性・耐雨性に優れる。
- チョウ目害虫に対してのみ脱皮促進的に作用するので、天敵類、鳥類、水生生物に対する安全性が高い。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用用量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	テブフェノジドを 含む農薬の 総使用回数	
ぶどう	ケムシ類	3000	200~700 g/10a	収穫前日まで	2回 以内	散布	2回以内	
りんご	ハマキムシ類、キリガ類	1500~3000						
	ケムシ類、シャクトリムシ類	3000		収穫7日前まで	3回 以内		3回以内	
おうとう	ハマキムシ類							
もも ネクタリン	ハマキムシ類							
なし	ケムシ類							
マンゴー	ドクガ類、ハマキムシ類	2000		200~700 g/10a	収穫21日前まで		2回 以内	2回以内
小粒核果類	ケムシ類	3000						
はくさい	ハスモンヨトウ アオムシ	2000~4000	100~300 g/10a	収穫前日まで	2回 以内	散布	2回以内	
キャベツ	シロイチモジヨトウ	2000						
	レタス	ハスモンヨトウ オオタバコガ		2000~4000				
いちご	ハスモンヨトウ	2000		収穫3日前まで	3回 以内		3回以内	
れんこん				収穫21日前まで	2回 以内		2回以内	
ほうれんそう				収穫7日前まで	3回 以内		3回以内	
にんじん	ヨトウムシ	2000~4000		200~700 g/10a	収穫前日まで		2回 以内	2回以内
	キアゲハ	2000~3000						
しょうが	ハスモンヨトウ	2000		200~700 g/10a	収穫21日前まで		3回 以内	3回以内
そば					収穫14日前まで		2回 以内	2回以内
だいず			収穫7日前まで		3回 以内	3回 以内	無人 航空機 による 散布	3回以内
かんしょ	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ	2000~3000	0.8g /10a					
さといも さといも(葉柄)	ハスモンヨトウ	2000	100~300 g/10a	収穫前日まで	散布	散布		

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	アフェクト®を 含む農薬の 総使用回数
てんさい	ヨトウムシ	2000	100～300 ㍓/10a	収穫 14 日前まで	2 回 以内	散布	2 回以内
茶	チャノコカクモンハマキ チャハマキ	1000	200～400 ㍓/10a	摘採 14 日前まで			
	ヨモギエダシャク チャノホソガ	1000～2000					
花き類・観葉植物 (きくを除く)	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ	1000	100～300 ㍓/10a	発生初期	5 回 以内	散布	5 回以内
きく	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ オオタバコガ						
とうき	キアゲハ						
樹木類	ケムシ類	2000～3000	200～700 ㍓/10a				

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- カラー及び花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないこと。また、使用后 1 4 日間は入水しないこと。
- 蚕に対して長期間毒性があるので、養蚕地帯等では使用しないこと。また、これら以外の場所でも付近に桑園がある場合は飛散してかからないように十分注意して散布すること。
- 無人航空機による散布を行う場合には、次の注意事項を遵守すること。
 - ◆ 散布機種 of 散布基準に従って行うこと。
 - ◆ 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 散布中に薬液の漏れがないように、事前に機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ◆ 散布液の飛散によって自動車の塗装やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
 - ◆ 散布終了後、機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。また使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に処理すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。